同〇元年元亀四月朔日、和泉國堺浦ニテ、富メル者共ガ求畜タル名物ノ道具共御覽有ベシトテ、友閑法印、丹羽五郎左衞門尉長秀ニ被仰付ケリ、兩人承テ堺ノ南北觸シカバ、所持ノ者共、此度奉ラデハトテ持參ル程ニ、イクラトモナク集ケリ、

〔信長記十一〕九鬼右馬允大坂表大船推廻事

同〇天正六年九月廿七日、九鬼右馬允〇嘉隆大船共御覽有ベキトテ、信長公住吉ヘ著津シ玉フテ、同廿九日、安部野於テ御鷹狩シ給ヒヌ、〇中略十月朔日、天氣ヲダヤカニ風靜ナレバ、彼大船共ヲ旗指物幕ナドニテ夥クカザリ立、浦々湊々ノ兵船ドモマデモ、其手々々ノ船ジルシ、我ヲトラジト美麗盡シケリ、御座船二艘金襴鈍子ヲ以カザリ立、堺南北ノ津ヨリ捧ゲ奉ル、尤御氣色ヨカリケリ、〇下略

〔堺鑑上神廟〕戎宮附島　芝居　水茶屋

延寶八年庚申ノ中秋ノ比、刺史水野氏ノ御時ニ、茶屋五軒御免ヲ請、誠ニ水ノ流ヲ戀茶屋、行末富サカイノ浦ノ鹽茶ヲタテ、世ヲ渡舟人モ泊ノ津トナレリ、

〔攝陽群談六住吉津〕住吉津

住吉郡住吉ニ屬ス

〔釋日本紀六逸義〕攝津國風土記曰、所以稱住吉者、昔息長足比賣天皇世、住吉大神現出而巡行天下、覓可住國時、到於沼名椋之長岡之前前者、今神宮南邊是其地、乃謂斯實可住之國、遂讃稱之云眞住吉住吉國、仍是定神社、今俗略之直稱須美乃叡、

〔古事記上〕底筒之男命、中筒男命、上筒之男命三柱神者、墨江之三前大神也、

〔古事記傳六〕住吉を須美與志と唱るは、後世のことにて、那良のころまでは、須美能延とのみ云り、まづ此記には墨江とかき、書紀萬葉には、住吉と書ても須美乃延とよみ、又萬葉に、墨之江、清江、須美乃延など有て、須美與志と云ることは一ッもなし、

攝津國住吉津